

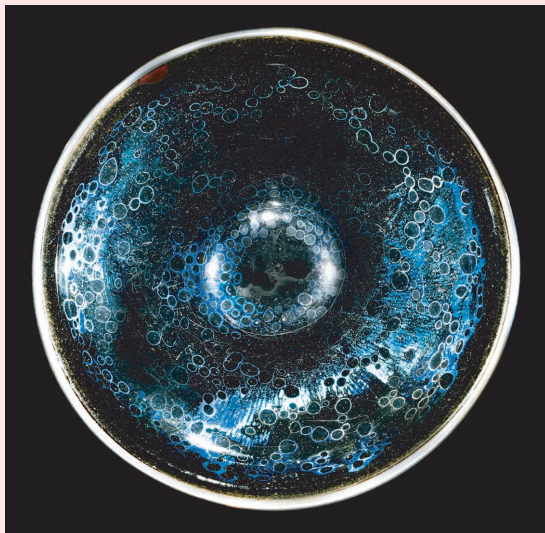
Color Gallery

シリーズ

匠の化学

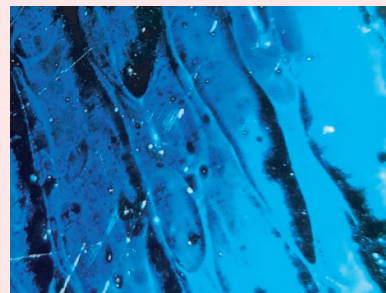
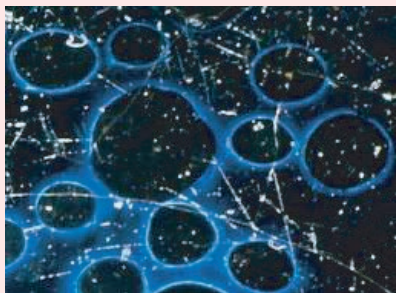
茶碗の最高峰「曜変天目」 出川哲朗

曜変天目は世界に3碗しか現存せず、そのすべてが国宝に指定されている。宋時代に建窯で焼成されたもので、南宋の宮廷でも使われ、日本には室町時代にもたらされ、徳川將軍家にも伝えられた。この曜変天目の釉上に丸い斑文があり、その周囲が青く光り輝くのを特徴としている。この青く見える部分は固有色ではなく、構造色と考えられ、現在その解明が進められている。P296-297



曜変天目茶碗

左は藤田美術館所蔵の曜変天目茶碗（撮影：三好和義）。右は中国の杭州市内で発見された曜変天目茶碗（古越会館蔵）の写真（撮影：出川哲朗）。



曜変天目茶碗の拡大写真

左：青く光る斑文部の拡大写真（撮影：三好和義氏）。右：青い光彩部分の拡大写真（撮影：東京理科大学・中井研究室）。